

巻頭言

ケイ素化学協会の発展と活力ある若い研究者の育成 関口 章 …… 1

ひとこと

2012年キッピング賞を受賞して 吉良 満夫 …… 2

トピックス—昨日今日そして明日のケイ素化学

有機シラン化合物を利用した表面濡れ性制御 高原 淳 …… 4

有機ケイ素化学とシリカ・ケイ酸塩をつなぐ 黒田 一幸 …… 10

イミノ基を有する新規シリレンの合成、構造及び反応性 井上 茂義 …… 17

パナソニックでのクロロシラン材料を用いた化学吸着単分子膜の展開
美濃 規央 …… 22

経済産業省有機ケイ素機能性化学品製造プロセス技術開発プロジェクト
島田 茂、佐藤 一彦 …… 28

国際学会報告

第10回国際ヘテロ原子化学会議 (ICHAC-10) 開催報告 時任 宣博 …… 30

韓国ケイ素協会設立総会に参加して 海野 雅史 …… 32

IRIS-13に参加して 斉藤 尚平 …… 34

協会賞・奨励賞

ケイ素関連金属新反応剤の開拓と実践的有機合成への応用 細見 彰 …… 37

安定シリレンの特徴的な反応を利用した新規含ケイ素 π 電子系の創製
石田真太郎 …… 39

シリコンスクエア—会員の広場

半導体材料であるシリコンウェハー用試薬の開発 大野 桂二 …… 41

ケイ素機能性材料に関するシンポジウムの開催
久新荘一郎、永島 英夫、小坂田耕太郎 …… 42

トゥールーズ留学記 中田 憲男 …… 43

研究室紹介

大阪市立工業研究所電子材料研究部 ハイブリッド材料研究室 …… 44

群馬大学大学院工学研究科応用化学・生物化学専攻 上野研究室 …… 45

第4回アジアケイ素シンポジウム特集

Multiple bonds to silicon: How they happened Robert West …… 46

The Importance and Prospects of Silicon Chemistry in Germany and Japan:
A Boost of Friendships to Meet Challenges
Shigeyoshi Inoue and Matthias Driess …… 54

The present Organosilicon chemistry in China Caihong Xu …… 60

シンポジウムプログラム …… 63

ケイ素化学協会より

入会の手続きおよび会員情報等の変更について …… 76

ケイ素化学協会名誉会員、役員および顧問名簿 …… 77

平成23年度会計決算報告書 …… 78

決算監査意見書 …… 80

編集後記

…… 81

ケイ素化学協会の発展と活力ある若い 研究者の育成

筑波大学・数理物質系・化学域 関口 章



会長に就任するにあたり、ケイ素化学協会の進むべき方向として3つの柱を掲げさせていただきたいと存じます。3つとは、1) 若手研究者の育成、2) 国際化、特にアジア諸国との連携強化、3) 会員の増強と交流の輪の拡張であります。これらを達成することによって、皆様にとってケイ素化学協会会員であることが真に有意義なものになると確信しています。1)に関しては、各表彰および会員支援・研究助成によって行ってまいります。特に2)と関連した事業として、本年10月に第4回アジアケイ素シンポジウム(ASiS-4)を計画しています。是非ご参加していただきたいと存じます。また、2011年には韓国において「Korean Silicon Society」が発足しました。韓国でケイ素化学が発足したことは大変に嬉しいニュースです。初代会長は、延世大学のMyong Euy Lee教授です。韓国のケイ素化学の発展は目覚ましく、ケイ素化学協会と協力してアジアのケイ素化学の発展に貢献したいと考えています。

本年度のケイ素化学協会が一番大きな事業は第4回アジアケイ素シンポジウムの開催です。アジア地区のケイ素化学分野の連携を深めるとともにアジアで開催されるシンポジウムが国際的に認められ

るようにと願っています。アジアケイ素シンポジウムが北米のケイ素シンポジウムやヨーロッパのEuropean Silicon Daysとともに世界の第三極として認知されることが、アジア地域の発展に必要であろうと考えています。第4回アジアケイ素シンポジウムの議長として約2年の準備を行って来ました。本シンポジウムへの参加登録者数は、8月中旬で、16か国、260名を越え、この内約90名が外国からの参加者です。

さて、21世紀の世界に目を向けてみますと、経済は混迷し、日本の産業界においても大きなパラダイムシフトが現在進行形で起こりつつあります。また2011年には東日本大震災という未曾有の大災害も経験しました。そのような状況を乗り越えるべく、ケイ素化学協会は、時代の要請に適合した価値ある学術団体として、個人会員および賛助会員の活動に資する共通プラットフォームを設定し、人的ネットワークの維持・拡大に努め、情報交換や産官学の連携を推進する支援を行っていきたいと考えています。微力ながら本会発展のため鋭意努力してまいり所存ですので、会員の皆様には是非ともケイ素化学協会を盛り上げていただき、ご支援とご協力をお願いする次第です。